# 岩手医科大学報
IWATE MEDICAL UNIVERSITY NEWS

2026. 1
No. 563

主な内容


新年のご挨拶
特集―――― 血管腫・脈管奇形治療センター開設
～最先端の医療提供と難治性疾患の研究拠点を目指して～
トピックス―― 医療連携協定締結式が挙行されました
トピックスプラス― 医大祭2025が行われました
募金状況報告
フリーページ― すこやかスポット歯学講座No.30
「外科的矯正治療における3Dデジタル臨床」


表紙写真：内丸メディカルセンターでプレゼントを配ったサンタクロースとスタッフ
（関連記事P.10）

Iwate Medical University

# 新年のご挨拶

理事長　祖父江　憲治

新年明けましておめでとうございます。例年になく正月三ヶ日は穏やかな天候に恵まれ、皆様方はご家族ご一緒の健やかな正月を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

一昨年来、意識改革を皆様方に声高に申し上げてまいりましたが、これは本学の財務危機に関わる事のみが発端ではなく、日本が人口殊に若年層減少と高齢化さらに資源不足などの難問を抱える中で、国として行政体制の抜本的変更を必要とせざるを得ず、本学の監督官庁である文科省と厚労省でも、各大学での大幅な方向性の変更や改革を求めてきております。

本学の財務改革に関しては、皆様のご理解とご協力で僅かに改善傾向にはありますが、まだまだ安全域に達しておらず、しばらくは努力が必要です。

大学の方針につきましては、昨年来具体的に申し述べてきました時代の変革に即した大学の体質改善です。現行の医療制度では医療費の大幅増収は見込めず、人口減に伴い入学者数も減り学納金も減少します。この問題を乗り切るため、本学の医療系総合大学である特色を生かし、従来ありました医歯薬総合研究所を昨年に一年近くかけ大幅改組し、組織再構築（新規人材の登用とラボ新設を含む）がほぼ終了近くなり、本学における医療イノベーションセンターが本格稼働します。この新センターは教育・研究・診療の橋渡しを行い、大学を活性化する活力源となると同時に、本学における第三の収入源の役割（競争的研究資金、受託と共同研究費、補助金や寄付金などと共に、次なる知財や技術移転による特許料獲得など）を果たすものと期待しております。

また、病院の運営・体質改善も非常に重要です。本年４月より大多数の内丸医科診療系は矢巾本院へ集約されますが、本学と周辺医療施設との連携を強化し、岩手県民の医療に一層注力すると同時に、北東北における医療のHubとして本学の役割を果たしてまいらなければなりません。

国が施策として求めてきます事のみならず、将来を見越して先取りした大幅に改変すべき事柄は躊躇せず、積極的に改革を実行してまいる所存です。時代の急激な変化にしなやかに対応する強靭で柔軟な大学造りを目指してまいりましょう。新年にあたり、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

# 謹賀新年

学　長　小笠原　邦昭

新年明けましておめでとうございます。教職員の皆様方におかれましてはご家族の皆様と健やかな新年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

さて、昨年末に経営改善に関する進捗状況をお話しました。皆様のご努力で着実に経営改善が目に見えてきましたがまだまだ安全域には入っていません。引き続き戦略を考えて実行に移したいと思います。学長投書も含め皆様のご鞭撻をよろしくお願いいたします。

さて、文科省・厚労省のみならず財務省、内閣府等の本邦の行政、政治が発する最近の情報を分析してみると「どういう大学を支援し、残そうとしているのか」がよくわかります。少子化による学生数の減少、特に大学に入る学生数が急激に減少する2040年に向け、国は大学定員数の減員どころか大学そのものを現在の半数にしようとしています。その証左は「国際卓越大学」と「地域連携大学」の認定と差別化です。前者は世界トップレベルの研究力と社会変革を促す研究成果が期待される大学を支援する制度で、主として旧帝国大学が認定される予定です。後者は大学が地域（自治体、企業、住民）と協力し地域の課題解決、人材育成、活性化を目指す取り組みで、文科省は「地域連携プラットフォーム」と提唱しております。学生が地域で学ぶ「域学連携」や産学官連携など、教育・研究・社会貢献を通じ地域と大学がWin-Winの関係を築き、持続可能な地域社会の実現を目指す動きです。具体的な動きとして文科省は「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」を制定し、全国25大学を認定しています。

上記に漏れた大学も2040年に向けどちらかを目指さなければ、近い将来大学はなくなってしまいます。岩手医科大学はどちらを目指すべきでしょうか。答えは自明で、三田俊次郎先生は北東北の医療の貧困を憂い岩手医学校を創設したわけですので、われわれの使命は岩手および北東北において教育・研究・社会貢献を通じて地域と大学がWin-Winの関係を築き、持続可能な地域社会の実現を目指すことになります。これまで岩手医科大学は医療で岩手および北東北に貢献してきました。しかしこれからはこれだけではなく、教育・研究を通じて地域に社会貢献しなければなりません。現在、学内の全学教育推進機構及びいわて高等教育コンソーシアム、いわて高等教育地域連携プラットフォームを通じて岩手県内の教育における大学間連携、あるいは高校との連携事業を行っていますが、まだ全学的な動きにはなっていません。

研究に関しても域学連携と産学官連携を行わなければなりません。この目的で行っているのが医歯薬総研の組織改編です。昨年のうちに医歯薬総研は各学部から独立した組織となり４部門に整理、各プロジェクトを立ち上げる準備を始め、現場のアイデアから機器開発、創薬開発を行う体制としました。そのため2025年９月に盛岡市飯岡に開所されたヘルステック・イノベーション・ハブ（HIH）内にある地域産業と先端技術を融合させ、地方から世界に向けた革新を生み出す組織であるTOLIC（東北ライフサイエンス・インストルメンツ・クラスター）内で、岩手大学とともに顔合わせと講演会を行いました。ライフサイエンス分野を中心に技術開発から製品化、さらには量産に至るまでを支援していただき、岩手の技術力を世界に発信することを協力し合うことを約束しました。また、創薬については医歯薬総研内に貸しラボの形で中小の創薬ベンチャー企業に入っていただき、創薬の共同研究を行うとともに収入も得られるような体制にしました。さらに医歯薬総研に外部から創薬を専門とする研究者を常勤とし、AIを用いた創薬あるいはすべての遺伝子改変マウスを作成可能にする予定です。ここに学内の基礎・臨床の医療者が集い、研究を活性化させようと思います。これらは研究に興味のある学生が大学に残り、学生納付金と病院収入に頼っている法人収入に加え、第三の収入をもたらすと考えます。すなわち今後リサーチマインドのある優秀な人材と収益を大学にもたらすのが「研究」ということになります。これらの考え方は文科省の提唱する「地域連携プラットフォーム」と一致します。

附属病院はどう考えればいいでしょうか。附属病院のみならず基幹病院は今赤字に苦しんでいます。現在の国の財政状況と人口減を考えると、今病院経営が劇的によくなることは考えられません。ここに人口減による医療職のみならず、事務職の人員不足が近い将来おこります。これに対応するにはどうすればいいでしょうか。実は、国はすでに答えを出しています。これが医療ＤＸです。医療ＤＸの目的は少ない病院人員で如何に医療の質を落とさずにするかです。

今後とも情報発信をしていこうと思います。教職員の皆様には今年もご指導のほどよろしくお願いいたします。

# 特集

# 血管腫・脈管奇形治療センター開設
## ～最先端の医療提供と難治性疾患の研究拠点を目指して～

血管腫の患者さんに最先端の医療を提供すること、難治性疾患の研究拠点となることを目的とし、院内の診療科間連携、多職種連携体制を組織として明確にし、血管腫患者の窓口となるべく、附属病院内に「血管腫・脈管奇形治療センター」を設置しました。

## 開設の経緯

従来「血管腫」として一括りに扱われていた疾患群の中には、小範囲の軽度な赤アザから、四肢全体や体幹中心を占める難治性の腫瘤を形成するものまで様々な病態が含まれています。このうち指定難病である難治性血管腫や脈管奇形症候群については、専門的に取り扱う診療科が少なく、特に北東北では医療の提供が不十分な状態でした。

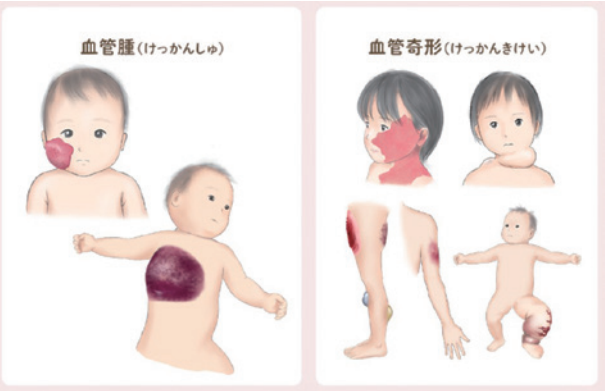
当院では以前より主に形成外科と放射線診断科の連携による血管腫診療に力を入れ、県内はもとより北東北の各県から患者さんの紹介を受けてきました。一方で、血管腫は幅広い年齢層に発症し、部位的にも全身に発生するために様々な診療科を受診することが多く横断的な連携が不十分であり、十分な医療を提供するためには診療科統合的な診療体制の確立が必要でした。

令和７年 10 月、血管腫患者さんに最先端の医療を提供すること、難治性疾患の研究拠点となることを目的に附属病院内に「血管腫・脈管奇形治療センター」が設置されました。

### ■「血管腫」や「脈管奇形」とは？

血管（動脈・静脈・毛細血管・リンパ管など）の発達や構造に異常が生じる病気の総称です。見た目には、皮膚の赤あざやしこりとして気づかれることが多いですが、体の深い部分にできることもあり、部位によっては痛みや腫れ、出血、機能障害を引き起こすこともあります。

血管腫は、乳幼児期に現れ、成長とともに自然に小さくなることが多いタイプが代表的です。一方、脈管奇形は生まれつき血管の構造が異常な状態で、年齢とともに大きくなったり、症状が進行したりすることがあります。




https://cure-vas.jp/
（難治性血管腫・血管奇形薬物療法研究班 情報サイト）

## センターの概要

血管腫は幅広い年齢層に発症し、全身に発生するため、当センターでは複数の診療科での連携を行っています。当センターで取り扱う主な疾患や治療内容、開設してからの診療実績をご紹介します。

### ■ 取り扱う主な疾患

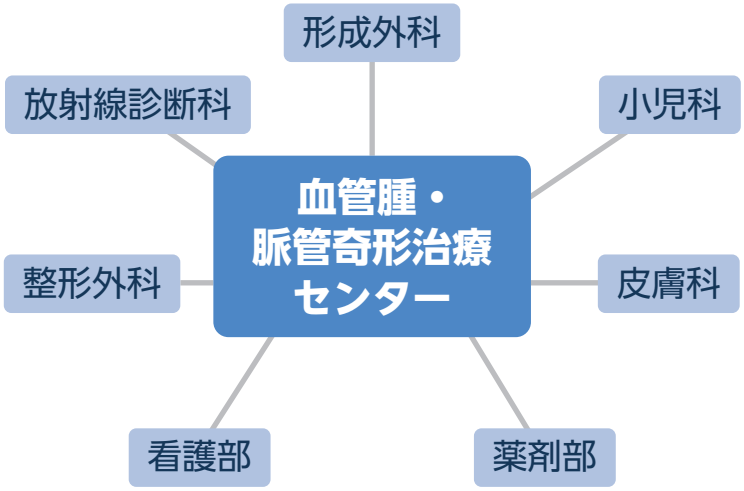
- クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群（難病）
- 動静脈奇形（頭蓋外 AVM）
- 巨大動静脈奇形（難病）
- 静脈奇形
- 巨大静脈奇形（難病）
- 混合型脈管奇形
- リンパ管奇形（リンパ管腫）
- 巨大リンパ管奇形（難病）
- リンパ管腫症
- ゴーハム病（難病）
- 青色ゴムまり様母斑症候群（小児慢性特定疾病）
- 先天性血管腫
- 乳児血管腫（イチゴ状血管腫）
- 毛細血管奇形（ポートワイン母斑、単純性血管腫）
- 血管腫随伴症（血栓性静脈炎、限局性血管内凝固障害（LIC））

### ■ 治療内容

外科的切除および再建手術、IVR 塞栓硬化療法、経皮的硬化療法、レーザー治療、薬物療法（mTOR 阻害薬、βブロッカー、漢方薬）など様々です。病気ごとに治療法がある程度決まっていますが、未だに決められた治療法がない病気も多くあります。病気によっては、適切な時期に治療を行うと非常に良い結果が得られることもあります。中には、いくつかの治療を組み合わせて治療することもあります。

### ■ チーム医療体制について

血管腫は幅広い年齢層に発症し、部位的にも全身に発生するために様々な診療科を受診することが多い疾患です。十分な医療を提供するためには診療科横断的な連携が必要なため、当センターでは形成外科、放射線診断科、小児科、皮膚科、整形外科、看護部、薬剤部で診療連携体制が確立されています。紹介先の主な窓口は形成外科ですが、センター内で診療科連携が行われていますので、従来通り関連診療科に紹介することも可能です。




### ■ 診療実績

当センター開設後の 10 月 1 日から～ 11 月 30 日の間に形成外科、放射線診断科、小児科、皮膚科、整形外科を受診し、血管腫または動静脈奇形の診断名を新たに付された患者さんは 24 名でした。内訳は年齢 0 歳～ 83 歳で、性別は男性 5 例、女性 19 例でした。疾患別では乳児血管腫（イチゴ状血管腫）が 7 例と最も多く、次いで毛細血管奇形（単純性血管腫） 5 例、静脈奇形（海綿状血管腫） 4 例、AVM 1 例、その他の血管腫 4 例でした。精査の結果血管腫ではない病変（皮膚炎、乳がん転移、酒さ）も認められました。各診療科で手術、レーザー治療内服治療などが行われましたが、AVM の 1 例は地元近くの病院での治療を希望されたため、他院へ紹介しています。

血管腫・脈管奇形治療センター

## 櫻庭　実 センター長（形成外科学講座 教授）

### Q どのような症状で受診される方が多いですか？

血管（動脈・静脈・毛細血管・リンパ管など）の発達や構造に異常が生じる病気の総称です。見た目には、皮膚の赤あざやしこりとして気づかれることが多いですが、体の深い部分にできることもあり、部位によっては痛みや腫れ、出血、機能障害を引き起こすこともあります。

血管腫は、乳幼児期に現れ、成長とともに自然に小さくなることが多いタイプが代表的です。一方､脈管奇形は生まれつき血管の構造が異常な状態で、年齢とともに大きくなったり、症状が進行したりすることがあります。

### Q 血管腫・脈管奇形の診療の難しさはどういったところにありますか？

血管腫には様々なタイプがあり患者さんに現れる症状は様々です。多くの患者さんで見られる皮膚面の赤色斑（赤あざ）や青紫色斑（青あざ）は肉眼的に目立つため､色素斑の治療を希望される患者さんが多くいらっしゃいます。また皮下のしこりを主症状とする患者さんも比較的多いです。しこりに青あざを合併する場合もあり多くの場合は静脈奇形と考えられます。しこりに痛みや拍動を伴う場合もあります。腫瘤全体に拍動性がある場合は動静脈奇形（AVM）が疑われます。

### Q 血管腫・脈管奇形に悩む方々に、どのような支援を行っていきたいと考えていますか？

これまで東北地方には血管腫・脈管奇形を専門的に扱う治療センターはありませんでした。センター化によって、各診療科に分散して治療を行っていた患者さんに対して、病院全体としてチーム医療を提供できればと考えています。また血管腫に関する情報が少なく、首都圏と比べて情報格差があるため、市民公開講座などを通じて情報発信に努め、患者さんをご支援できればと思っています。

### Q センターで特に力を入れている治療や取り組み

当院は大学病院として一般病院では治療が難しい難治性血管奇形の治療に力を入れています。いわゆる指定難病である巨大静脈奇形、巨大動静脈奇形、巨大リンパ管奇形、クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群、リンパ管腫症や、小児慢性特定疾患の青色ゴムまり様母斑症候群やカサバッハ・メリット症候群などがそれにあたります。また、近年は分子標的治療薬など新しい治療薬も開発されてきており、新たな薬物治療も積極的に取り入れています。

### Q 今後のセンターの目標や展望

前述のように近年新たな分子標的薬の開発が行われていますが、現在承認されている薬の中には有効性が高い治療薬がないのが現状です。加えて血管腫・脈管奇形の分野はこれまで注目されてこなかったため、まだまだブルーオーシャンと考えて良い分野です。当センターは設立したばかりで十分な臨床データを保有している訳ではありませんが、今後新たな治療薬の開発や、手術手技などの開発につなげていける研究拠点としての役割も果たせるようになる事が大きな目標です。

# 新任教授の紹介

## 令和７年12月15日就任

耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座

### 中西 啓（なかにし ひろし）

昭和50年６月20日
静岡県裾野市出身

**研究テーマ**

・難聴の原因遺伝子探索
・遺伝性難聴患者の聴覚特性解析

**主な著者論文**

・*TMC1* and *TMC2* localize at the site of mechanotransduction in mammalian inner ear hair cell stereocilia. *Cell Rep* 12: 1606 − 1617, 2015.
・*NLRP3* mutation and cochlear autoinflammation cause syndromic and nonsyndromic hearing loss DFNA34 responsive to anakinra therapy. *ProcNatlAcadSciUSA* 114: E7766 − E7775, 2017.
・*Tmc2* expression partially restores auditory function in a mouse model of DFNB7/B11 deafness caused by loss of *Tmc1* function. *Sci Rep* 14: 12125, 2018.

**趣味**

サイクリング、登山

**教職員への自己 PR**

このたび、令和７年12月15日付で耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の教授を拝命いたしました。平成18年に大学院に入学して以来、遺伝性難聴に興味を持って研究を続けてきました。臨床では、中耳疾患に対する手術や、手術で治療困難な難聴者に対する人工内耳治療などを行ってきました。これまでの経験を活かし、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の発展に貢献できるよう精一杯がんばりたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

**主な経歴**

平成15年３月　浜松医科大学医学部 卒業
平成15年４月　浜松医科大学耳鼻咽喉科･頭頸部外科 研修医
平成18年４月　浜松医科大学大学院医学系研究科 入学
平成22年４月　浜松医科大学耳鼻咽喉科･頭頸部外科 医員
平成24年１月　米国国立衛生研究所 博士研究員
平成27年３月　浜松医科大学耳鼻咽喉科･頭頸部外科 医員
平成27年８月　浜松医科大学耳鼻咽喉科･頭頸部外科 助教
令和５年１月　浜松医科大学耳鼻咽喉科･頭頸部外科 講師
令和７年12月　現職

## 令和８年１月１日就任

整形外科学講座

### 角谷 賢一朗（かくたに けんいちろう）

昭和49年９月４日
兵庫県神戸市出身

**研究テーマ**

椎間板変性に関する基礎的研究、脊椎転移に対する手術療法に関する研究

**主な著者論文**

1. Kakutani K, Sakai Y, Maeno K, Takada T, Yurube T, Kurakawa T, Miyazaki S, Terashima Y, Ito M, Hara H, Kawamoto T, Ejima Y, Sakashita A, Kiyota N, Kizawa Y, Sasaki R, Akisue T, Minami H, Kuroda R, Kurosaka M, Nishida K. Prospective cohort study of performance status and activities of daily living after surgery for spinal metastasis. Clin Spine Surg 2017;30:E1026-32.
2. Kakutani K, Kanda Y, Yurube T, Takeoka Y, Miyazaki K, Ohnishi H, Matsuo T, Ryu M, Kuroshima K, Kumagai N, Hiranaka Y, Hayashi S, Hoshino Y, Hara H, Sakai Y, Kuroda R. The identification of risk factors for symptomatic spinal metastasis onset: A prospective cohort Study of 128 asymptomatic spinal metastasis patients. Cancers (Basel) 2023;15:1251.
3. Kakutani K, Yurube T, An HS, Doita M, Masuda K. Cytokine inhibitors upregulate extracellular matrix anabolism of human intervertebral discs under alginate beads and alginate-embedded explant cultures. Int J Mol Sci.2023;24:12336.

**趣味**

硬式テニス（東北学生ベスト４）、ゴルフ（ベストスコア86）、魚釣り（アカメ、シーバス、グレなど）、ぜひ誘って下さい。

**教職員への自己 PR**

はじめまして。整形外科教授を拝命いたしました角谷賢一朗と申します。学生時代に多くの学びと出会いを得た思い出深い盛岡の地に赴任でき、大変嬉しく感じております。これまで腰痛に関する基礎研究や脊椎転移治療の臨床研究に取り組んでまいりました。今後は医局員の皆様と力を合わせ、患者さんに還元できる新しい治療を国内外に発信していきたいと考えております。末永くご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

**主な経歴**

平成12年３月　弘前大学 卒業
平成12年４月　神戸大学整形外科 入局
平成19年４月　米国Rush University medical center 留学
平成20年７月　神戸大学医学部附属病院整形外科 医員
平成23年７月　神戸医学医学部附属病院整形外科 助教
令和元年７月　神戸医学医学部附属病院整形外科
　　脊椎外科学部門 特命准教授
令和８年１月　岩手医科大学整形外科 教授

## 全学研究交流会及びいわて東北メディカル・メガバンク機構学内報告会が行われました

11月4日（火）、西講義実習棟2階講義室において、第2回全学研究交流会及び第11回いわて東北メディカル・メガバンク機構学内報告会が開催され、78名の研究者が参加しました。

本学における研究力のさらなる向上を目指し、今年度より全学研究交流会を開催しています。第2回は学内の共同研究の強化を目的として、毎年実施しているいわて東北メディカル・メガバンク機構の学内報告会との合同開催となりました。

小笠原学長の開会の挨拶で始まり、機構から事業の進捗状況や研究成果について報告、それに対する質疑応答が行われ、最後に仲副学長から閉会の挨拶がありました。発表会終了後には自由交流の場が設けられ、学内の研究者同士の情報交換やネットワーク形成の機会となったようでした。

**「東北メディカル・メガバンク計画について」**

丹野 高三 教授
（いわて東北メディカル・メガバンク機構長）

**「メガバンクコホートのデータを診療に活かす：生活習慣とリスク因子の関連」**

武部 典子 講師
（臨床研究・疫学研究部門）

**「レセプト情報を活用したリアルワールド医療の実態把握と新展開」**

西谷 直之 教授
（メガバンク・データ管理部門副部門長）

**「IMMへの分譲申請・共同研究申請手続き概要」**

須藤　洋一 特命准教授
（生体情報解析部門副部門長）

自由交流の場で意見交換をする研究者

## 岩手医科大学附属病院健康フェスタが開催されました

11月3日（月）、矢巾町活動交流センター「やはぱーく」にて、岩手医科大学附属病院主催の「健康フェスタ」が開催されました。

当日は、岩手医科大学附属病院が補助金事業で実施主体となっている脳卒中・心臓病等総合支援センターがブースでのPR活動や、地元タレント（東北楽天ゴールデンイーグルス 元選手 銀次さん、ふじポンさん、天津木村さん、よこっちピーマンさん）との健康に関するステージイベント等を行い、約200名の方々が来場しました。当院の医師とタレントとのトークショーでは笑いを交えながら脳卒中・心臓病についてのお話があり、楽しみながら理解を深めることができるイベントとなりました。

板橋教授、熊谷講師とタレントさんによるステージイベント

## Student Doctor 認定式が挙行されました

11月7日（金）、大堀記念講堂において、医学部4年生128名を対象としたStudent Doctor 認定式が挙行されました。臨床実習においてStudent Doctor として臨床の場に第一歩を踏み出す学生が、医師としての心構えをし医療人の一員となることの責任感や使命感を再認識する節目の式典です。

式では、小笠原学長、下沖医学部長から激励のことばがありました。学生を代表して徳永小町さんは『医療人としての自覚を十分に持ち、謙虚な姿勢で「誠の精神に基づく誠の医療」を実践することを誓います』と力強く宣誓しました。Student Doctor に認定された学生たちは、これから始まる臨床実習に向けて医師の道を歩む決意を新たにしました。

Student Doctor に認定された医学部4年生

## ボイラー安全祈願祭が行われました

11月10日（月）、エネルギーセンターにおいて、ボイラー安全祈願祭が行われ、理事長をはじめ本学関係者10名が出席しました。

神官による神事では、祝詞奏上、清祓いの後、本学関係者による玉串奉奠が行われ、ボイラーに対する感謝の念を深めるとともに、安全操業の誓いを新たにしました。

なお、令和7年度のボイラーデースローガンは「日々点検　確かな技術で　ボイラー管理」です。

出席者による玉串奉奠

## 企業研究セミナーが開催されました

11月10日（月）・11日（火）、矢巾キャンパス東講義実習棟において、薬学部4・5年生を対象とした企業研究セミナーが開催されました。保険薬局・病院を中心に約100社の事業所が来学し、多くの学生が参加しました。

企業担当者から事業内容・職場環境・求める人材像などについて直接話を聞くことができ、講義では得られない「生の声」に触れる貴重な機会となりました。特に5年生は薬学実務実習を終えたばかりで、自身の将来をより具体的に考え始める重要な時期であり、参加者らは企業理解を深めるとともに、自らのキャリアビジョンを描く手がかりを得る時間となりました。

岩手医科大学附属病院のブース

## 医療連携協定締結式が挙行されました

11月14日（金）、当院は、限られた医療資源を有効に活用し、地域医療の充実・強化に寄与することを目的として、盛岡市立病院および盛岡赤十字病院と医療連携協定を締結しました。

本協定の締結により、当院が担う高度医療へのアクセス向上が図られるとともに、病状が安定した後には、両病院において継続的な治療を円滑に提供することが可能となります。また、県内の三次救急を担う当院において、病床満床により患者受入れをお断りする事態を防ぎ、救急医療体制の機能維持にも資するものです。

森野病院長は、「医療連携を密にすることで、地域医療の充実と患者さんの安心に繋げていきたい」と述べました。

左から：加藤章信盛岡市立病院長、森野附属病院長、
藤原純盛岡赤十字病院長

## 岩手県がんフォーラムでがんセンターPR活動が行われました

11月15日（土）、盛岡市で開催された「岩手県がんフォーラム」において、がんセンターのPR活動が行われました。

コロナ禍以来の対面開催となり、がんセンターのスタッフがリーフレットやボールペン等グッズの配布を行い、イベント参加者300名にがんセンターの活動内容などについてPRや啓発活動を行いました。

また、フォーラムには当院の医師や看護師も出演し、今回のテーマである新しい放射線治療についての講演やパネルディスカッション、質疑応答が行われ、参加した県民へのがんに関する正しい知識の普及活動を行いました。

当院の医師・看護師によるパネルディスカッション

## いわてまるごと科学館に薬学部のブースを出展しました

11月29日（土）、キオクシア アイーナで開催された「いわてまるごと科学館 ～過去・現在・未来をつなぐ科学の軌跡～」（いわてまるごと科学館実行委員会主催、岩手県共催）に薬学部が出展しました。イベント来場者約840名のうち、薬学部のブースには約500名の親子が参加され、お菓子をお薬に見立てた調剤や打錠機を使った錠剤の製造を体験しました。

企画発案者の杉山育美准教授ほか５名の教職員と薬学部１・３年生の有志７名が協力し、大盛況に終わりました。薬学に興味を持ってくれた子供たちの中から薬剤師が誕生し、地域医療に貢献してくれることが期待されます。

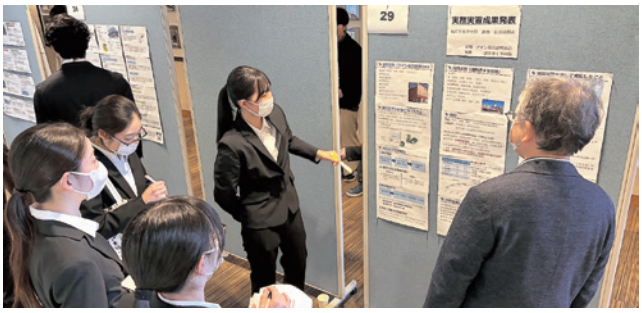
お菓子を薬に見立てた調剤体験

## 薬学部実務実習成果発表会が行われました

12月19日（金）、大堀記念講堂ホワイエにおいて令和７年度実務実習成果発表会が開催され、薬学部５年生37名が22週間にわたる臨床実務実習の成果を発表しました。

学生たちは、病院や薬局といった実臨床の現場で経験した知識や実習前後での考え方・姿勢の変化、現場で得た気付き等を整理し、当日は教員や学生同士の活発なディスカッションが行われました。松浦実務実習部会長は「専門知識や技能の習得に加え、患者さんや医療スタッフとの関わりを通じて培われた人間性やコミュニケーション能力の成長がうかがえた」と語られました。

学生同士が経験を共有し学びを深めると同時に、１年後に控えた薬剤師国家試験合格に向けた意識を高める、有意義な発表会となったようでした。



熱心に発表会に臨む学生ら

## 附属病院と附属内丸メディカルセンターでクリスマスのサプライズイベントが行われました

12月23日（火）、附属病院と附属内丸メディカルセンターにおいて、クリスマスのサプライズイベント「サンタが附属病院にやってきた！」が行われました。患者さんや来院者の皆さんへ安心感とワクワク感のプレゼントと感染症対策・予防啓発を目的に開催されています。

突如現れたサンタクロースは、患者さんや来院された方々に「ステキなクリスマスになりますように」等と書かれたメッセージシールの貼られた個別包装のマスクをプレゼントしました。病院を訪れていた方々はサンタクロースからの思いがけないプレゼントを笑顔で受け取り、楽しいひとときを過ごしていました。

当日は報道関係者が多く訪れ、メディアに多く取り上げられました。

プレゼントされたマスク

附属病院１階エントランス

歯科医療センター１階

TOPICS PLUS

# 医大祭 2025 が行われました

11 月 2 日（日）・3 日（月）の両日、矢巾キャンパスにおいて、医大祭が開催されました。今回のテーマは「桜・梅・桃・李」と題され、各花のようにそれぞれが持つ美しさや素晴らしさを大切にし、自分らしさや個性のあふれる医大祭にしたいという願いが込められています。

各クラブが出店する模擬店の他、キャンパス内では各研究室による学術展示や公開実験、文化部による団体展示や e-sports 大会、体育館では歌唱王やお笑いライブ（ぺこぱ）等、様々な企画が用意され、両日ともに多数の学生・教職員・地域住民の方たちで賑わいました。

医大祭実行局委員長の医学部 3 年髙野彩映さんは「多くの方の支えのおかげで医大祭を無事に終えることができました。準備から当日まで協力してくれた皆さんに心から感謝しています。この経験をこれからの大学生活に活かしたい」と語られました。参加者らは、学部の垣根を越えて繋がりを強くしたようでした。

カラフルに彩られたキャンパスモール

学友会による模擬店ブース

馬術部による「馬車体験」

アウトドア同好会による「アウトドアフェスティバル」

e-sports club による「イワテゲームショウ」

軽音楽部による「軽音 LIVE-2025-」

# 表彰の栄誉

## 臨床薬学講座臨床薬剤学分野の工藤 賢三 教授が厚生労働大臣表彰（薬事功労者）を受賞しました

臨床薬学講座臨床薬剤学分野の工藤教授（薬剤部長）は、長年にわたり医薬関係事業の発展向上に貢献し、薬事行政の推進に顕著な功績があったとして、令和７年度の薬事功労者として厚生労働大臣表彰を受賞しました。

工藤教授は、長きにわたり岩手県薬剤師会常務理事として同会の事業運営に取り組まれたほか、日本病院薬剤師会常務理事および岩手県病院薬剤師会会長として病院薬剤師の資質向上と相互連携に尽力されました。また、本学の教授として薬学生の育成にも貢献したことが認められ、表彰されました。

## 病態薬理学講座分子細胞薬理学分野の藤原 俊朗 講師が公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団令和７年度調査研究助成へ採択されました

このたび、公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団令和７年度調査研究助成へ採択されたことをご報告させて頂きます。助成対象分野は「より豊かな生活に貢献する医療技術に関する研究」であり、評価項目は、非侵襲性、QOLの向上、医療情報の収集・管理・運用の３点となっておりました。今回の研究内容の詳細は控えさせて頂きますが、MRIの非（低）侵襲性、正確な病態分類によるQOL向上、深層学習のための医療情報の収集・管理・運用という点が評価されたと考えております。また、本研究は、本学薬学部および医学部、そして京都府立医科医学部に在籍する各研究者の技術と興味、アイディアを持ち寄って開始した共同研究となります。本学は、故・小川彰・前理事長の時代より科横断型・分野横断型研究を推進しており、大学・学部・学科の垣根を超えた今回の共同研究は、小さい規模ながらも、その一つの形を実践できたのではないかと思っております。

賞状と副賞（スズケン製ボディソープと石鹸）

（文責：病態薬理学講座分子細胞薬理学分野 講師 藤原 俊朗）

## 口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野の川又 慎介 助教が第70回日本口腔外科学会総会・学術大会において優秀ポスター発表賞（臨床部門）を受賞しました

川井准教授、川又助教

この度、令和７年11月13日～15日に開催された第70回日本口腔外科学会総会･学術大会にて発表した演題「カスタムメイドチタンメッシュトレーと自家腸骨PCBMによる下顎骨再建の定量的評価 —骨体積保持率と三次元形態偏差に関する検討—」が、優秀ポスター発表賞（臨床部門）を受賞いたしました。

本演題では、腫瘍や外傷により下顎骨を失った患者さんに対し、患者さんごとに設計したチタン製オーダーメイド構造体と自家腸骨移植を併用して再建する術式を評価しました。術後の骨量保持および形態再現性をCT解析により定量的に明らかにし、より元の顎の形態に近い再建を実現し得る有効な術式である可能性を示した点が高く評価されました。

本報告は、川井准教授のご指導のもと取り組んだものであり、日頃よりご助言・ご協力を賜っている山田教授をはじめ、医局の諸先生方に深く感謝申し上げます。今後も顎骨再建の治療向上を目指し、臨床に根ざした研究を継続してまいります。

（文責：口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野 助教 川又慎介）

# 表彰の栄誉

## 放射線医学講座の向井田 瑛佑 助教が<br>日本腹部放射線学会においてバイエル奨励賞を受賞しました

この度、第38回日本腹部放射線学会バイエル奨励賞を受賞したためご報告します。バイエル奨励賞とは腹部領域の放射線国際学会の発表者から選考される賞です。受賞対象は2023年に私が北米放射線学会（RSNA）で発表した「Improvement of Diagnosis of Adjacent Organ Invasion of Extrahepatic Bile Duct Cancer by Adding Arterial and Delayed Phases」という演題です。本邦では肝外胆管癌の画像診断としてDynamic-CTを行う施設も多いですが、その具体的な利点について指摘している研究が少なく、そこに学術的な意味があると考えて発表しました。今回受賞できましたのは放射線医学講座の先生方、肝胆膵領域の内科・外科・病理・放射線科カンファレンスグループの先生方からのご指導の賜物と存じております。この場を借りて感謝申し上げます。

（文責：放射線医学講座 助教 向井田 瑛佑）

## 放射線医学講座の小原 純 専門研修医が<br>日本医学放射線学会秋季臨床大会において優秀演題を受賞しました

小原専門研修医、田村講師

この度、第61回日本医学放射線学会秋季臨床大会にて「肝外胆管癌における造影CTの動態解析と線維性構築との関連」が優秀演題を受賞しましたので、ご報告致します。

本演題は、2023年に放射線科　向井田瑛佑先生が発表された「Improved Diagnosis of Adjacent Organ Invasion of Extrahepatic Cholangiocarcinoma by Adding Arterial and Delayed Phases」の追加検討となります。

肝外胆管癌のdynamic造影におけるCT値の動態と腫瘍組織の線維性構築の間に関連があるかを検討した結果、細胞成分主体のものと線維組織主体のものでは門脈相と平衡相でCT値に有意差があることが示されました。近年、Tumor Microenvironmentに代表される癌関連線維芽細胞が生命予後を予測する指標や新たな治療標的として注目されています。そうしたときに、非侵襲的に腫瘍の線維性構築を予測できることは今後、治療方針の決定の一助になることが期待されます。

本演題の発表においてご指導頂きました放射線科　田村明生先生をはじめ、ご協力頂いた先生方にこの場をかりて感謝申し上げます。

（文責：放射線医学講座 専門研修医 小原 純）

## 内科学講座消化器内科分野の稲荷森 叶芽 専門研修医が<br>日本超音波学会において奨励賞を受賞しました

この度、日本超音波学会第98回学術集会において、演題「慢性肝疾患の脂肪化診断におけるAI－HRI Composite Scoreの有用性」を発表し、第26回奨励賞を受賞いたしました。

超音波での非侵襲的な肝脂肪化診断技術の有用性を報告させていただきました。世界的な肥満人口の増加に伴い急速に増加する脂肪性肝疾患において、低侵襲な超音波脂肪化診断手法のさらなる進歩が期待されており、その有用性をご評価いただけたのと、今後のさらなる検討への期待を込めての受賞と心得ています。このような貴重な発表の機会を頂き、ご評価を頂けたこと、大変光栄に存じます。ご指導いただきました黒田特任教授、松本教授、ならびに医局員の皆様に深く御礼申し上げます。

（文責：内科学講座消化器内科分野 専門研修医 稲荷森 叶芽）

阿部助教、黒田特任教授、稲荷森専門研修医、松本教授

# 表彰の栄誉

## 薬剤部の二瓶 哲 薬剤長が日本医療薬学会において奨励賞を受賞しました

工藤薬剤部長、二瓶薬剤長

このたび、日本医療薬学会 奨励賞という栄誉ある賞を受賞いたしました。先日、神戸で開催された第35回日本医療薬学会年会（11/22-24）において、授賞式に臨むとともに、受賞講演を行わせていただきました。

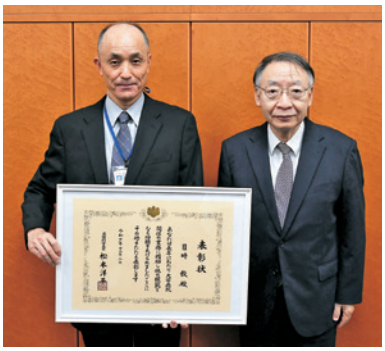
受賞対象となった研究は、「がん薬物療法時の腎障害に対する新たな治療法開発を目指した研究」です。がん薬物療法時の腎障害は、治療継続や患者QOL、生命予後にも影響する発生率の高い副作用です。本テーマに関連する10編の論文を含む研究成果をご評価いただきました。

私は特に、血管新生阻害薬（VEGF阻害薬）による腎障害の軽減に取り組んできました。臨床研究では、蛋白尿軽減において「降圧薬の種類よりも血圧管理の質」が重要であることを明らかにしました。さらに基礎研究では、VEGF阻害に伴う血管内皮機能障害やエンドセリン-１産生亢進が新たな治療標的となり得ること、そしてエンドセリン受容体拮抗薬が蛋白尿軽減に向けた有望なドラッグリポジショニング候補であることを示しました。今回の成果が、より安全で効果的ながん薬物療法の開発に向けた一助となれば幸いです。

今回の受賞は、日頃よりご指導くださった先生方、共に研究に取り組んでくれた協力研究者の皆様、そして日々の臨床を支えてくれた薬剤部スタッフの尽力があってこそ実現したものです。この場を借りて深く感謝申し上げます。

（文責：薬剤部 薬剤長 二瓶 哲）

## 中央放射線部の目時 毅 副技師長が文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労者）を受賞しました


目時副技師長、祖父江理事長

中央放射線部の目時 毅 副技師長は、長年にわたり本学附属病院の業務に尽力し、その功績が顕著であったとして、令和７年度の医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣表彰を受賞しました。

目時副技師長は、37年間の長きにわたり診療放射線技師として診療放射線業務に精励しました。平成26年からは主任放射線技術員として超高磁場先端MRI研究センターや附属病院の研究や業務の取りまとめ、令和３年からは副技師長として内丸メディカルセンター業務の取りまとめを行いました。常に患者さん中心の医療を心掛け、率先して業務改善に努める姿勢は後輩の模範となり、上司や同僚にも高く評価されました。また、診療放射線技師会の会長を務めるなど、附属病院の医療を支えるだけでなく地域放射線医療向上にも大きく貢献されてきた功績が認められ、表彰されました。

## 患者サポートセンターの佐々木 真由美 看護師が文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労者）を受賞しました

佐々木看護師、祖父江理事長

患者サポートセンターの佐々木 真由美 看護師は、長年にわたり本学附属病院の業務に尽力し、その功績が顕著であったとして、令和７年度の医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣表彰を受賞しました。

佐々木看護師は、口腔外科、小児科、NICU、心臓血管外科、消化器内科、緩和ケア科、患者サポートセンター、アピアランスケアを経験し、その専門的知識と技術を活かし37年の長きにわたり看護師業務に精励しました。産業カウンセラー、家族心理士、こどもアート療法士、日本サイコオンコロジー学会日本緩和医療学会認定CSTファシリテーター、タクティールケアプロフェッショナル（インストラクター）認定を取得するなど、専門的知識習得にも励みました。看護職のみならず医師や他職種からの信頼も厚く、これまで培ってきた看護経験に基づき、周囲のロールモデルになる等、附属病院の医療・看護を支えてきた功績が認められ、表彰されました。

## 理事会報告　（11月定例－11月25日開催）

### 1．教員の人事について

産婦人科学講座　特任教授
　庄子　忠宏（前　同講座　准教授）
内科学講座消化器内科分野　特任准教授
　鳥谷　洋右（前　同分野　講師）
（発令年月日　2025年12月１日）

### 2．組織規程及び経営改善委員会規程の一部改正について

経営改善委員会が担う取り組みについて、経営戦略の企画及び立案の役割を明確にするため、委員会の名称を「経営戦略会議」に変更することに加え、役割の追記及び所要の改正をすることとし、組織規程及び経営改善委員会規程の一部を改正することを承認した。
（施行年月日　2025年12月１日）

### 3．教育職員の定員に関する規程の一部改正について

2026年度文部科学省高等教育局主要事項として予定されている「高度医療人材養成拠点形成事業（死因究明に係る教育拠点形成プログラム）」については、国の方針として、今後、法医学・歯科法医学（法歯学）の人材養成に重点を置くことが明らかであることから、統合基礎講座法科学講座法歯学・災害口腔医学分野の運用体制の安定化と教育力の充実を図るため、歯学部運用定員任期付助教枠３名を使用して当該分野に教授枠１名を設けることとし、教育職員の定員に関する規程の一部を改正することを承認した。
（施行年月日　2025年12月１日）

### 4．臨時評議員会の開催日時及び議題・議案等について

## 理事会報告　（12月定例－12月15日開催）

### 1．理事の競業について

### 2．教員の人事について

統合基礎講座解剖学講座機能形態学分野　准教授
　吉岡　望
（現　日本歯科大学新潟生命歯学部解剖学第１講座　講師）
（発令年月日　割愛の状況による）

### 3．岩手医科大学学則の一部改正について

2026年度の医学部入学定員等の臨時的な増加の取扱いについて、これまでと同様に35名（岩手県地域枠）の臨時定員増が認可されたことに伴い、学生定員を変更することとし、岩手医科大学学則の一部を改正することを承認した。
（施行年月日　2026年４月１日）

# 岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

## 学術振興資金募金

**第31回目のご芳名紹介です。（令和7年10月1日～令和7年11月30日）**

### ■ 法人・団体等（1件）

＜ご芳名のみ＞
東京美装興業　株式会社（東京都新宿区）
（敬称略）

### ■ 個人（6件）

＜400,000＞
守田　和紀（一般）
＜300,000＞
塚原　正典（医19）
＜100,000＞
山本　彬（医59）
＜ご芳名のみ＞
鈴木　悠地・彰子
（本学教職員）
田中　斎（父母）
小原　要（父母）
（順不同、敬称略）

| 区　分 | 申込件数 | 寄付金額（円） |
|---|---|---|
| 圭　陵　会 | 536 | 285,728,220 |
| 在学生ご父母 | 402 | 97,240,000 |
| 役員・名誉教授 | 46 | 113,130,000 |
| 教　職　員 | 49 | 7,640,000 |
| 一　般 | 29 | 489,053,572 |
| 法人・団体 | 330 | 441,905,481 |
| 合　計 | 1,392 | 1,434,697,273 |

（令和2年9月1日～令和7年11月30日現在）

## 歯学部支援基金を通じた寄付

**第2回目のご芳名紹介です。（令和7年10月1日～令和7年11月30日）**

### ■ 法人・団体等（2件）

＜1,510,000＞
歯学部12期会有志
＜ご芳名のみ＞
東海4県歯学部同窓会支部
（愛知県・静岡県・岐阜県・三重県）
（敬称略）

| 区　分 | 申込件数 | 寄付金額（円） |
|---|---|---|
| 圭　陵　会 | 64 | 6,109,000 |
| 在学生ご父母 | 5 | 240,000 |
| 法人・団体 | 4 | 3,130,000 |
| 合　計 | 73 | 9,479,000 |

（令和7年7月1日～令和7年11月30日現在）

### ■ 個人（29件）

＜1,000,000＞
長島　明（歯4）
＜100,000＞
林下　忠行（医25）
山田　雅夫（歯7）
＜50,000＞
長崎　昭憲（歯3）
櫻井　義之（歯39）
白鳥　孝之（歯2）
＜30,000＞
齊藤　裕志（歯9）
白鳥　信一（歯29）
＜ご芳名のみ＞
堀部　崇（歯31）
太田　邦明（医30・歯7）
吉村　宅弘（歯12）
鳥谷　宗正（医24）
和賀　浩幸（歯16）
宮澤　裕一郎（歯30）
長田　純一（歯11）
長田　公子（歯13）
三善　潤（歯15）
三善　ふみ子（歯15）
熊谷　俊一（医25）
杉山　豊（歯18）
佐藤　方信（医15）
佐渡　知宏（父母）
高瀬　真二（歯16）
佐藤　亘也（父母）
藤澤　政紀（歯14）
佐柄　英人（父母）
竹内　守（医18）
笹生　一嘉（歯31）
近江　徹廣（医23）
（順不同、敬称略）

## 岩手県ドクターヘリ寄付金

**第1回目のご芳名紹介です。（令和7年10月1日～令和7年11月30日）**

### ■ 法人・団体等（1件）

＜ご芳名のみ＞
株式会社ジェイパット（岩手県紫波郡）
（敬称略）

### ■ 個人（1件）

＜ご芳名のみ＞
山崎　良輔（一般）
（敬称略）

# シリーズ 職場めぐり No.155

## Aブロック外来

Aブロック外来は、看護師６名・看護補助者１名・医師事務作業補助者２名・受付事務員４名で構成されており、小児科・小児外科の診療を行っています。更に、岩手県予防接種センターの拠点となっており、県内の地域医療機関からの相談対応や正しい情報提供を通じて、岩手県全体の予防接種体制を支える役割を担っています。

私たちは、問診や身長・体重測定・採血や治療のための末梢確保、化学療法をブロック内で実施しています。また、鎮静下で検査を実施することが多く、事前の体調管理や食止めの説明、鎮静後の全身状態の観察を行い、安全・安心のもと検査を受けられるように努めています。特定機能病院として、入退院を繰り返す医療的ケアを必要とする子どもたちも多く通院しており、NICUや小児病棟と連携しながら、自宅での療養に対する家族の不安な気持ちに寄り添う看護を心掛けています。当院の子ども憲章に沿いながら、一人ひとりの患児・家族に合った看護を提供し、疾患と向き合いながら、成長発達していく子どもたちを見守り、ご家族とともに喜び合えるAブロック外来を目指しています。

（主任看護師 及川 佳子）

## 緩和ケア病棟

緩和ケア病棟は25床の落ち着いた環境の中で、患者さんとご家族が安心して過ごせる時間を大切にしています。入棟する患者さんの多くは、病院からの転入であり、これまでの治療過程を共有しながら、がんの進行による痛みやつらさを和らげ、その人らしく過ごす時間がもてるように、医師や看護師、薬剤師、栄養士、臨床心理士、緩和ケアチームスタッフなど多職種が連携し、丁寧な支援を行っています。関わるスタッフは、患者さん一人ひとりの表情や心のゆらぎに、敏感に気づく感性を高め、質の高いケアを実践しています。また、患者さん個々の希望に合わせ、折り紙などのレクリエーションやアロママッサージを行いながら、対話の機会をもち一緒に楽しむ時間を作っています。これまで、多くの患者さんやご家族から「ここに来てよかった」という言葉を頂いており、その思いが私たちの大きな励みになっています。これからも、温かく穏やかな時間を過ごしていただけるよう、スタッフ一同、心を込めて支援していきたいと思います。

（看護師長 菅野 綾子）

### 岩手医科大学報編集委員

祖父江憲治　藤村　尚子
影山　雄太　髙橋　　慶
松政　正俊　阿部　　俊
齋野　朝幸　杉下　佳子
藤本　康之　石森　由樹
白石　博久　髙橋　淳美
佐藤　泰生　伊藤　祥子
佐藤　　仁　稲垣　学人
藤澤　美穂　髙橋美季子
細田留美子　松田　悠史
畠山　正充


### 編集後記

2026年初号となる岩手医科大学報をお楽しみいただけましたでしょうか。本年も1月号から盛りだくさんの内容でお届けしております。

さて、2025年は皆さまにとってどんな一年だったでしょうか。毎年穏やかな一年を願いつつも、大きな変化が訪れることもあります。岩手医大においては、附属病院と内丸メディカルセンターの統合が発表され、病院内の体制も大きく変わり始めています。

忙しい日々が続く中ではありますが、どうか体調にお気をつけてお過ごしください。皆さまにとって、2026年が実り多く輝かしい一年となりますことを心より願っております。

（編集委員 伊藤 祥子）


**岩手医科大学報　第563号**

発行年月日／令和８年１月31日
発　行／学校法人岩手医科大学
編集委員長／祖父江　憲治
編　集／岩手医科大学報編集委員会
事務局／総務部　総務課
TEL. 019-651-5111（内線5452、5453）
FAX. 019-907-2448
E-mail:kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印　刷／河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

すこやか
# スポット歯学講座 No. 30

口腔保健育成学講座歯科矯正学分野 特任准教授　桑島 幸紀

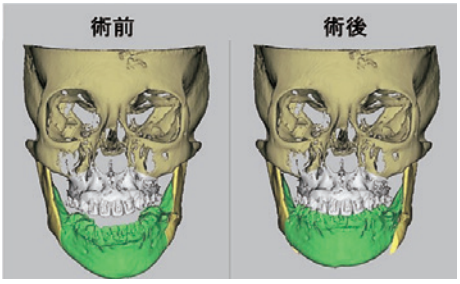
## 外科的矯正治療における 3D デジタル臨床

### ■ 外科的矯正治療とは？

外科的矯正治療とは、顎骨の変形などにより矯正歯科治療のみでは咬合や顔貌の改善が難しい場合に、矯正歯科治療と顎矯正手術を組み合わせて行う治療法です。1990 年に保険適用となってから 35 年が経過し、顎変形症に対する社会的認知の向上や咬合機能の改善だけでなく顔貌の審美的改善への関心が高まったことから、外科的矯正治療を希望する患者は増加傾向にあります。当科においても、年間で約 50 名の新規患者さんが受診しています。

### ■ 顎矯正手術における３Ｄシミュレーションの有用性

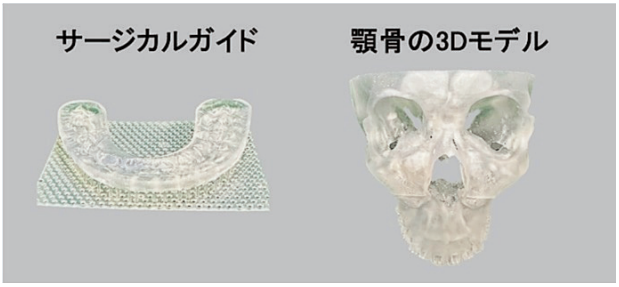
近年、術式の改良や超音波骨切削器などの手術器具の進歩に加え、デジタル技術の導入が進んだことで、顎矯正手術の適応範囲拡大と安全性の向上が大きく進展しています。本学でも口腔内スキャナー、コーンビームＣＴ、３Ｄプランニングソフトを用いた術前シミュレーションを行っており、顎骨の垂直的・水平的移動量や術後の咬合を数値化した精密な手術計画が可能となっています。これにより、患者さんごとの個別最適化が進むだけでなく、難症例におけるリスク予見にも大きく貢献しています。



手術前後の 3D シミュレーション

### ■ 外科的矯正治療における３Ｄプリンティング技術の応用

術中に顎位を決定するためのサージカルガイドも３Ｄシミュレーションと３Ｄプリンターを用いて作製できるようになり、複雑な顎骨移動にも正確に対応できるようになっています。また、顎顔面や下顎骨の実体モデルも３Ｄプリントにより作製され、口腔外科医・形成外科医・矯正歯科医が治療方針を共有するうえで重要な役割を果たしています。実体モデルを用いることで、手術手順の検討やリスク評価がより確実となり、チーム医療の質向上にも寄与しています。



3D プリンティングによる実態モデル

### ■ 今後の外科的矯正治療

今後の外科的矯正治療は３Ｄシミュレーションを中心としたデジタル技術に加え、ＡＩの発展によりさらなる安全性と精度の向上が期待されます。シミュレーション精度の向上により確実な術前計画が可能となり、サージカルガイドや実体モデルの活用は術中の正確性と治療の予知性を高めます。これらの技術の進歩により、患者さん一人ひとりに最適化された、より負担の少ない質の高い治療が実現していくと考えられます。